

○死化粧について

生体反応のない死体への化粧は、通常のメイクとは全く異なる対応が必要である。

特に死後に生体反応がないために、肌は変色をおこし、化粧のためのベースの製作が必要となる。しかし、近年エアブラシ技術の発達によって、ベース製作の必要なく、化粧することができるようになった。また、エアブラシの普及が遅れているために、従来のハンドアプライでの死化粧も多く行われているが、多くのメイクさんは死化粧を施術したことが無く、理論修得が必要である。ハンドアプライにおいては、通常のメイクと技術的な違いはあまりないが、生体と異なり、肌の反発や劣化(腐敗を含む)などで、物理的にも変性しており、その対処が必要である。震災等では、遺体の損傷や腐敗等も激しく、触ることもできないこともあった。新技術であるエアブラシは遺体にさわることなく、薄膜できれいにカバーすることができ対応することができる。また、衛生面においても安全である。また、近年、核家族化と少子化によって、葬儀が質素に行われる傾向にあり、死化粧に係るコスト低減が求められている。そのため、高コストの専門死化粧師によるのではなく、ビューティ系メイクさんや葬儀社の社員による死化粧への対応が求められている。

5

ステップ4：死化粧

開催日：平成26年 12/6(土)、12/7(日)、12/13(土)、12/14(日)、12/23(火祝)



・理論面

- 1、生体との違い、ご遺体の変化を理論的に把握
(体温の低下～死後硬直～死斑～顔色の変化～皮膚や粘膜の乾燥)
- 2、状況観察と感染防御の為の処置と化粧前の準備。
(感染防御対策)

・技術面

- 1、ハンドアプライによる死化粧のデモンストレーション。
- 2、エアブラシによる死化粧のデモンストレーション
 - ① うっ血や変色等の軽度修復方法
 - ② ご遺体状況別により必要機材の有用性及び材料特性の説明
 - ③ 生体メイクと異なり、衛生面の管理が重要な為生体との違いを習得
- 3、相モデルでの演習
状況をイメージしてのメイクアップ(通常・状況変化別によるメイク手法)
* タトゥカバーなどのカバーメイクと技法が似ている為、カバーメイクの練習になる。
- 4、次回までの課題(提出物あり)
自宅練習。カバーメイクと技法が似ているため、カバーメイクの練習にもなる。